

学校図書館における人 的・物的整備の推進につ いて

議員 児童・生徒の読書活動を推進し、言語力の育成を図つていくためには、児童・生徒が積極的に活用してくるような学校図書館へと整備する取り組みが求められていると思う。本市の取り組みはどうか。

教育長 学校図書館司書10人の常勤嘱託職員を配置して、1人が2校から3校を兼務している。また、平成22年度末の学校図書館の図書整備率は、小学校では19校中16校、中学校では10校中6校が達成している。全校で達成できるように今後も整備を進めていく。

大本益之議員

若者の社会参画について

教職員の年齢構成について

議員 今後、多くのベテラン教員の退職が予想される中、児童への指導面などの

議員 子ども・若者育成支援推進法の施行後、子ども・若者ビジョンが昨年7月に

公表された。その中で、社会形成・社会参加に関する必要性を感じるが、所見者の意見表明機会の確保が記されている。

本市では、具体的にどのようなことが行われているか、また、今後の取り組みについてたずねる。

教育長 現在、市内中学2年生を対象に職場体験を実施している。また、社会的、職業的自立に向け、必要な能力や態度を育成するためのキャリア教育にも取り組んでいる。そして、小・中学校の社会科を中心にシティズンシップ教育の推進を図るとともに、教科等研究委員会の中で、小・中における位置づけを明確にしてまとめる予定である。

スポーツの振興について



議員 「市民や子どもたちへ身近な選手から夢や希望を与える」という意味で、交代を図つていきたいと考えている。

教育長 学校現場では、先輩教員が後輩教員を育てていくOJTが急務となっている。教育委員会としては、学校訪問における指導や必要な要因であると思われるのに対応した指導主事の派遣、意図的な人員配置等により、学校の教育力の低下を防ぐとともに、スマートな世代交代を図つていきたいと考えている。

OJTを含め、若い先生へのスムーズな世代交代をする必要性を感じるが、所見者においても大切だと考えたずねる。

森岡聰子議員

保健・福祉・医療施策について

保健・福祉・医療施策について

議員 ①市民病院の改革プランに、具体的な取り組みとして、医療相談体制の充実を挙げているが、その役割を担うメディカルソーシャルワーカーの設置は考えられないか。

市長 ①メディカルソーシャルワーカーの採用については、保健・福祉・医療の連携強化を図る面からも有効であると考えている。相談窓口体制の充実を図るためにも採用を検討していく必要があるということは十分認識している。しかし、新たな事業者の参入は見込めない状況である。行政として何ができるかを考えるために先進事例調査を行い、当事者や家族の方、さらには事業所や県担当課と連携を図りながら研究していく。

